

なんでもフリーマーケット

小一・田中 玲奈

「はやくたべなさい。」

月よびのあさ、ママはスマホをみながらいった。きょうのあさごはんは、おにぎり、なつとう、ハム、トマト、ぎゅうにゅう。

パクパクたべたが、おいのにがてななつとうだけがのこってしまった。

「はやくたべなさい！」

ママはおこったあと、ダイニングテーブルの上にスマホをおきトイレにいった。

「はあー。また、おこられた。」

小学校にゆう学して一か月がたった日から、ママはスマホをみせてくれるようになった。でも、一日、十ぷんだけ。十ぷんいじょうは目がわるくなるからダメだよって。ママはいつもみているのにずるい。わたしは、むねもおなかもいっぱいになった。

キラキラキラ

ママのスマホがとつぜんきいろにひかった。のぞきこむと「なんでもフリーマーケット」というアプリがひらいていた。「なんでもないものをしゅっぴんできます。いらぬものやしんをアツプしてください。ほしいものといらぬものをこうかんします。」とかいてあった。

「へんなの…」

わたしはふしぎにおもったが、つくえの上のなつとうのしゃしんをママのスマホでとった。そのあと、しゅっぴんのボタンをおした。

チャリン

百えん玉をおとしたような音のあと、つくえの上のおさらは空になり、プリンがおかれていた。とつぜんのできごとでびっくりした。でも、大すきなプリンがきえてしまうまえにいそいでたべた。

「あれ？きょうは、はやい。えらかったね」

トイレからかえってきたママがめずらしくほめてくれた。

つぎの日には、きれいなねぎチャーハン。三日目にはうめぼしいりのおにぎりをしゅっぴんした。もちろん、ママにはひみつで。

フリーマーケットをはじめて四日目。

「はやくたべなさい！」

といつもよりきげんのわるいママがいった。

「すぐおこるママなんてもういらない」

おこったわたしはママがトイレにいつているすきに、リビングにあるママのしゃしんのしゃしんをスマホでとってしゅっぴんした。

チャリン

きょうは、つくえの上に青いろのラムネが一つぶだけおかれている。

『これだけ？』

すくなくとおもったが、友だちのりくくんがいつもよりはやくむかえにきたのでいそいでいえをでた。

わたしはいつもどおりに学校にいき、いつものかえりのかいのじやんけんがおわったので、ひとりでいえにかえった。

ピンポーン

チャイムをならすが、いつもいえにいるはずのママはいつまでま

ってもでてこない。ふあんでチャイムがこわれるくらいなんでもお
した。

『はやく、でて！おねがい』

でも、いえの中からへんじはない。

『わたしのわがままのせいでママがいなくなっちゃったんだ』

そうおもうとかなしくなりなみだがどんだんあふれてきてしやが
みこんだ。

けっきよく、ママは学校の六じかんめをしらせるチャイムがとお
くでなったときにかえってきた。かいものがながびいてしまったそ
うだ。たくさんないてつかれたので、その日は、はやくねた。

あの日からわたしはあさごはんをのこさずたべるようになった。
どんなにきらいなものでも。ママはあいかわらずよくおこるけど、
いつもそばにいてくれるからあんしんできる。

いつもありがとう。ママ大好き。



画：中垣 ゆたか
